

介護講師研究会レポート ～2023年度 介護講師研究会の報告～

上山 小百合*

はじめに

介護講師研究会は、2018年3月より大阪で開催しております。毎月1回のペースで継続しています。目的としては、「介護講師が時代に合った求められる知識・技術の習得と実践と共有」を目指しています。参加者は、介護福祉士、看護師などの介護分野に関連した教育・育成担当者、また、現場で継続して働いているケアマネジャー、管理者、介護職員の方で構成されています。2023年度は、時代に求められる福祉・介護のkeywordから、具体的な実践につながる取り組みについて考えるディスカッション、共有をテーマとして行いました。

全国の方が参加できるように対面とオンラインの2つの種類で対応をしています。

2023年度の毎月のテーマ内容

- 4月 ①SDGs
- 5月 ②LGBTQIA+
- 6月 ③ティーチングとコーチング
- 7月 ④ストレスマネジメント
- 8月 ⑤スーパービジョン
- 9月 ⑥福祉用具の活用
- 10月 ⑦美味しく食べる支援
- 11月 ⑧ホスピタリティ
- 12月 ⑨介護福祉士国家試験対策

①4月 SDGsについて

参加者は、12名（ハイブリッド対応でオンライン2名、対面10名で実施する。）

3つのグループに分かれてグループディスカッショ

ンを実施する。

キーワードとしては、

- ・組織としてできることから
- ・地域貢献
- ・地域ニーズを活かす
- ・施設・事業所にできることを探す
- ・実体験の共有
- ・環境→教育→人材→定着

参加された講師からの感想

- ・小さいgoalを作り、目的をはっきりさせることで達成が可視化しやすくなる。
- ・身近な場面でSDGsを活用できていることを言語化することを意識する。

②5月 LGBTQIA+

参加者は、10名で全員の意見交換や皆さんの考えや気持ちや思いを共有する。

キーワードは、

- ・時代と共に変化
- ・漫画、絵本、映画などの教材の活用
- ・イメージしやすい資料が多く出版されている
- ・ジェンダーの歴史的な背景の理解
- ・当事者の声に耳を傾ける

参加された講師からの感想

- ・授業や研修中の発言や性に対する表現方法については、慎重に不適切な表現にならないように対応する必要がある。
- ・本人の希望を確認する、身体介護の実技等は、体に接触するのでグループワークの構成の工夫にも合理的配慮が求められる。

*大阪健康福祉短期大学 附属福祉実践研究センター

- ・使いやすい教材の発信や正しく情報を知り、理解に繋げることが大切である。

③ 6月 ティーチングとコーチング

参加者は、12名で3つのグループに分かれてグループディスカッションを実施する。

キーワードは、

- ・ ティーチングとコーチングの使い分け
- ・ 時代と共に教育スタイルの変更
- ・ ハラスメントと指導のバランス力
- ・ 働く仕事内容や職場環境における指導の2極化

参加された講師からの感想

- ・ ティーチングもコーチングも両方活用できた方が良い。
- ・ 指導方法のメリット・デメリットを知った上で指導実践する必要がある。

④ 7月 ストレスマネジメント

参加者は、10名でマンダラートを活用し、自身のストレス解消法を皆さんの書いてもらい、意見を出し合う。

キーワードは、

- ・ ストレス解消法
- ・ ストレスチェック
- ・ 体をほぐす
- ・ 笑いの効果
- ・ 環境
- ・ 交流の場

参加された講師からの感想

- ・ マンダラートシートの活用で意見が出しやすい。
- ・ ストレスチェックを使い、定期的なセルフチェックをすること。
- ・ 手軽なストレス解消方法を実践する。
- ・ 自分に合ったストレス解消方法を見つける。
- ・ 組織としてのストレスマネジメントを目指し、働きやすい職場づくりの工夫をする。

⑤ 8月 スーパービジョン

参加者は、14名（ハイブリッド対応でオンライン2名、対面12名で実施する。）

3つのグループに分かれてグループディスカッショ

ンを実施する。

「テーマ」 円滑に指導ができる工夫は？

キーワードは、

- ・ スーパービジョンのどの種類を活用しているか？
 - ① 個別、集団
 - ② ピア、セルフ
 - ③ ライブ
- ・ スーパーバイザーが気をつけることは？
 - ① 話しやすい雰囲気
 - ② バイザーが話しすぎない
 - ③ バイザーが納得しているか？

参加された講師からの感想

- ・ 対象者に合ったスーパービジョンの組合せやバリエーションの強化が必要である。
- ・ スーパービジョンの種類を知り、意図的な指導プログラムを作成する。

⑥ 9月 福祉用具の活用（介護ロボット、ICT、制度内外問わず使いやすい道具、もの等）

参加者は、12名（ハイブリッド対応でオンライン2名、対面10名で実施する。）

3つのグループに分かれてグループディスカッションを実施する。

「テーマ」

自分たちで、調べてきたものや実践で活用しているものを情報共有する

キーワードは、

- ・ ユニバーサルデザイン
- ・ 使いやすい
- ・ 親しみやすい
- ・ 安全
- ・ 快適
- ・ 便利グッズ
- ・ デザインがスタイリッシュ
- ・ 笑顔で楽しく

参加された講師からの感想

- ・ 発想の転換が重要である。
- ・ ADLの維持・向上のみの商品ではなく、QOLの維持・向上のポイントが高い。
- ・ 「生活にあったらいいなという視点」を持つこと。

- ・安全の使い方だけでなく、快適な暮らしを支えるという考えを持つこと。

⑦10月 美味しく食べる支援

参加者は、8名（ハイブリッド対応でオンライン1名、対面7名で実施する。）

2つのグループに分かれてグループディスカッションを実施する。

「テーマ」

自分たちで、介護食、美味しく食べるために必要な支援、嚥下、口腔ケアについて調べてきたものや実践で活用しているものを情報共有する

キーワードは、

- ・口腔体操の目的
- ・嚥下のメカニズム
- ・新しい食品を知る
- ・美味しく食べる工夫（温度、提供の方法）
- ・サンプルをもらう
- ・試食してみる

参加された講師からの感想

- ・美味しく食べるための支援について考えることができた。
- ・高齢になっても、障害があっても習慣や好みを大切にすること。
- ・とろみ付きのジュース、お茶などの販売があることを初めて知った。
- ・自動販売機でとろみ付きが選べることを初めて知った。

⑧11月 ホスピタリティ

参加者は、14名

3つのグループに分かれてグループディスカッションを実施する。

「テーマ」 ホスピタリティ活用と実践について

キーワードは、

- ・言葉遣い
- ・対人への関わる姿勢
- ・サービスとホスピタリティの違い
- ・ホスピタリティがあるとは具体的にどのようなこと？
- ・ホスピタリティを高めるために

参加された講師からの感想

ホスピタリティの言葉の理解や使い方があいまいである。

捉え方や表現が定まらないので、表現しにくい。

尊厳を護ることやホスピタリティは人々の感覚や価値観で相違がある。

⑨12月 介護福祉士国家試験の中で対策と傾向

参加者は、13名

全体でグループディスカッションを実施する。

「テーマ」

介護福祉士試験対策についての実践

キーワードは、

- ・モチベーション
- ・試験までのプラン（生活習慣の見直し）
- ・自分に合ったテキスト選び
- ・苦手科目の克服
- ・試験対策の授業の構成と時間配分

参加された講師からの感想

改正ポイントや新しい言葉や内容の理解が必要である。

- ① 障害者差別解消法の改正（2023年4月1日改正ポイント）による合理的配慮の捉え方。
- ② 災害に関すること。（DMATとDWATの違い）
- ③ 認知症施策推進大綱のポイントの確認ができた。

まとめ

2023年度は、テーマをkeywordに絞ったことで参加者からの声の発信がしやすく、

様々な関係者、専門職の意見交流と情報共有と新しいことを知る場所、また日々の実践を考える機会になった。2024年度は、そのkeywordをより発展的にそして職場や教育現場で活用できることを目指し、3か月ごとにテーマの連続、継続ができるように取り組みたいと考えている。